



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3948 号 2017.10.10 発行

大学倶楽部・大阪教育大 障がいのある児童ら700人を招待 芸術専攻の学生がコンサート

毎日新聞 2017年10月9日
濱田直哉氏の歌に合わせ、手拍子する子どもたち
「フィンガー5メドレー」でコスプレダンスを披露する学生



大阪府立の支援学校9校に通う児童とその介助者を招き、大阪教育大学の学生らがこのほど、コンサートを開いた。会場は、世界的なアーティストも演奏会を開くザ・シンフォニーホール（大阪市北区）。本格的なステージに流れる美しい演奏に、700人が聴き入った。

「ハートフルコンサート」と題されたこの演奏会は、府教育庁、同ホールと同大による共催事業として、昨年初めて開催された。2回目となる今回は入場者が倍増し、会場は熱気に包まれた。

教養学科芸術専攻で管・打楽器を学ぶ学生ら約70人で構成する「ウインドオーケストラ」に加え、全国の国立大学から管楽器専任教員12人が趣旨に賛同し、出演した。

まず神代（くましろ）修准教授の指揮で「スター・パズル・マーチ」「ルパン三世のテーマ」など8曲を披露した。同大卒業生で、盲目の声楽家として活躍する濱田直哉氏もゲスト出演し、「上を向いて歩こう」で伸びやかなバリトンを響かせた。続けて会場の子どもたちと一緒に「ビリーブ」（杉本竜一作詞・作曲）を合唱。1970年代に活躍したアイドルグループ「フィンガー5」のメドレー」では、高校時代の制服や体操服をまとった学生8人が壇上でダンスを披露し、盛り上げた。

鑑賞した児童は「こんなコンサートは初めて。シンバルの音がきれいだった」と感激していた。バスクラリネットを担当した3年の西前菜々子さんは「『となりのトトロ』などみんなが知っている曲、リズムを刻みやすい曲が多かったので、一体感を感じました」と振り返り、「クラシックは堅苦しい雰囲気になってしまいがちですが、リラックスして、のびのび楽しんでもらえる演奏会がもっと増えるといいなと思います」と語った。

フルート奏者で司会も務めた3年の松尾早彩（さあや）さんは「子どもたちの反応がダイレクトで、ノリがよかったです。体の動きや拍手で気持ちを表現してくれたので、生の音楽を楽しんでいることが伝わってきました」と笑顔で話した。

障害者、健常者一緒に・音楽劇 鳥の宗教／国文祭・障文祭なら 2017

奈良新聞 2017年10月9日

本番を間近に控えて熱のこもった練習を繰り返す出演者=8日、奈良市六条西3の「たんぼぼの家」

障害のある人、ない人が歌やダンスで共演する音楽劇「鳥の宗教」の練習会が8日、奈良市六条西3丁目の障害者福祉施設「たんぼぼの家」で行われた。小学生から60代までの男女約30人が参加。プロ俳優で同施設スタッフの佐藤拓道さんの指導を受け、各シーンの歌や演技を確認した。



同音楽劇は、第32回国民文化祭・なら2017、第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会の事業として上演。宮沢賢治「よだかの星」のよだかが主役のモデルで、困難に向き合いながらも助け合って生きるこの意味を探る姿が演じられる

国原譜

奈良新聞 2017年10月9日

かつて難解とされた現代アートだが、観光資源での活用も含め国内でも定着した感がある。同ジャンルと呼べる作品範囲の広さも一因だろう。

鑑賞者が作品の一部になったり、展示方法、場所が従来形でないものも少なくない。作品との向き合い方でも自由度が高い。

第32回国民文化祭・なら2017と、第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会の交流事業「体感する奈良!“心”感覚展」(県文化会館で15日まで)は、五感で展示物に接する展覧会だ。視覚だけでなく、さわったり、香りを嗅いだり。

現代アートの趣き漂う同展は、障害の有無にかかわらず奈良の魅力の一端に触れる体験型。両祭を初の一体開催にした思いの根幹に触れる催しの一つでもある。

アイマスクをして動物の形状を感じ取り、香りから大和茶や塗香を再認識する展示などがあり、心に響く内容は各人各様に違いない。その振れ幅を楽しむのが、この催事の味わい方だと思う。

鑑賞者が展示物に能動的にかかわる点ではリレーショナルアートでもある。見えるものだけにとらわれない試みは芸術の秋にふさわしい。(智)

関西広域連合の所期目的達成できず

大阪日日新聞 2017年10月9日

東京一極集中の是正が叫ばれて久しい。「地方創生」や「地方分権」のスローガンが10日公示の衆議院選挙を前に聞かれるが、果たして地方の時代は到来するのか。2009年の衆院選で誕生した民主党政権(当時)の「地域主権」に期待して翌10年に発足した関西広域連合は、所期の目的を達成できていない。

文化庁の京都移転を観光・産業振興につなげる共同宣言に署名した関西広域連合長の井戸敏三氏(左から2人目)と文化庁長官の宮田亮平氏(同3人目) =2016年7月

■法案廃止

「国の出先機関を引き受けることを関西広域連合は狙った。地域主権を1丁目1番地とする民主党政権で法案を決定したが、廃案になった」

関西広域連合長の井戸敏三兵庫県知事は、圏域の経済・住民団体代表者らを迎えた9月下旬の協議会で、目的が未達成の背景を説明し「使命を果たさなければいけない。旗を掲げ続ける」



と訴えた。

国の各省庁が地方に設置する出先機関を巡っては、地元自治体との二重行政が指摘されているほか、国会や国民からチェック機能が働きにくいいため事務執行に無駄が生じやすいとして問題視されている。その状況を踏まえ、09年衆院選で民主党は「国の出先機関の原則廃止」を掲げて政権交代を遂げたが、12年衆院選で自民党が政権を奪還したため、関連の法案は廃案になった経緯がある。

関西広域連合はこの間、中小企業を支援する経済産業局、国道や河川を整備する地方整備局、国立公園を管理する地方環境事務所の3機関に絞って事務・権限の移管を目指していた。当時の橋下徹大阪府知事は「丸ごと移管はぜひ実現しなければならない。いよいよ本格的な国とのバトルが始まる」と戦闘モードだったが、結果的に丸ごと移管は実現しておらず、依然として「旗色」は悪いままだ。

■国は身軽に

大阪府や兵庫県など2府6県4政令市で構成する関西広域連合だが、発足の過程に関わった関西経済連合会元会長の秋山喜久氏の指摘は明快だ。

「日本は中央集権制度のまま活動した。『日本株式会社』と言われるほど官民一体で高度成長を遂げたが、豊かになり、中央集権の弊害が出ている。(交通インフラなどの)社会資本整備は中央で決められ、地域の特性に合っていない」

今回の衆院選は憲法改正の是非が争点の一つになっているが、9条の議論とは別に「憲法に地方自治をはっきり打ち出すべきだ」と秋山氏は説く。井戸氏も今後の憲法改正議論を注視する意向を示し、井戸氏周辺は「どの政党が政権を取っても地方との関係を構築しなければ内政の仕事はできない」と言い切る。

関西広域連合が掲げた「中央集権体制の打破」は果たして実現するのか。京都府への文化庁移転をはじめ、和歌山県の統計局、徳島県の消費者庁の拠点整備方針を引き合いに、井戸氏は「東京一極集中の是正につながっている」と胸を張るが、首都機能の関西への配置を視野に要望する「防災庁(仮称)」創設については具体化に至っていない。

「『国難』に向けて国は身軽になってほしい」。前出の井戸氏周辺は衆院選を念頭にこうつぶやいた。

発達障がい少年が焙煎する珈琲 ショップオープンに大反響



NEWS ポストセブン 2017年10月10日

彼の名は、岩野響(ひびき)くん。15才の珈琲焙煎士だ。小学3年でアスペルガー症候群と診断され、中学で不登校になった。施設に入るものの、自分に合うものはなかなか見つけられなかった。そんな彼がこの春、高校進学はせず、自らの珈琲豆販売店を開店。

「500円でも自分の力で稼げるように」、そんな両親の思いを大きく上回り、わずか2か月後には、焙煎が追いつかない爆発的人気を呼んだ。

焙煎が追いつかないほどの人気

障がいを受け入れ、自立への道を切り拓く、奇跡のような家族の軌跡を両親に聞いた。

いろいろ試した中で、珈琲なら仕事としてやっていけそうだってなりました。凝り性ですから、長い時は5時間くらい焙煎機のハンドルをくるくる回してましたね。それも2年間、毎日(笑い)。

そうして2017年4月1日、ひーくん(響くん)

が自分で焙煎した珈琲豆を販売するお店『ホライズン・ラボ』をオープンさせました。開店をこの日にしたのは、新学期とか新入学のムードの中、ぼくだけ何も始まらないという後ろめたさや罪悪感を持ったまま、4月を迎えてほしくなかったからです。

私たちのお店『リップル洋品店』にひーくんが交ざるというのでもよかったんですが、できれば彼自身が社会とつながっていけるスペースがあればと思って。前の大家さんがつくった茶室を主人が改造してお店をつくりました。

本音を言うと、最初は売れなくてもよかったんです。ひーくんの1つの区切りとしてスタートさせたかったの。こういう15才もいるよっていう小さな発信拠点にしたかったの。

〈店名は、中3の夏に家族で行ったタイ・プーケットの海から。水平線（ホライズン）のように広く自由に生きられるように、珈琲焙煎を研究する場所（ラボ）にしたいということだった。〉

ここはひーくんが働けるようにつくった場所だから、逆にひーくんができないことは何もないんです。できることしか置いていないので。

〈「今の環境は完全に自分の体の一部みたいになっていて、その中では問題がないんですけど、そうじゃない作業は無理なんですよ（苦笑）」

ひーくんが言う“そうじゃない作業”とは、接客だ。実は開店して2か月目、ブログ記事が掲載されたことで、大反響となったのだ。〉

とても楽しい記事で私たちも嬉しかったんですけど、その時は、ひーくんのアスペルガーの話には触れなかったんです。でも、いらしたお客様はあれ？ ってなるんです。彼がいきなり壁の方に向いちゃったり、目を合わせて話せなかったり、テープレコーダーみたいに同じことしか言わなくなったりするから。これはひーくんにもお客様にもよくないなと。緊急家族会議を開きました。

痛感したのは、やっぱり障がいがあることを隠して“響”を説明することはできない、ということでした。アスペルガー障がいは目に見えないから、接客で落ち度があると、単なる失礼なやつって思われたりもするんです。

そこで「やっぱり高校行ってないからなあ」とか、「わがまま言ってお店出してもらったみたいだぞ」なんていう意見も出てきて。2年間毎日ひーくんが頑張ってきたのにつて、私はすごく悔しかったんです。

障がいだからってかっこ悪いわけじゃない。ずるいかもしれないけど障がいを明かして、こういうふうに頑張ってるっていう家族が、日本に、世界に、1軒あったっていいじゃないって、ひーくんに言ったんです。でもひーくんはそれでも知られたくないっていう一点張りでしたね。

「純粋に珈琲の勉強を頑張ってきたのに、“障がい”ってなると全部障がいに吹き飛ばされちゃうんですよ。でも、健常者として扱われたってこの子は苦しい。じゃあどうするってなったのが5月2日。その日に、上毛新聞の取材依頼が来たんです」（父・開人さん）

〈閉店後、記者を交えて数時間に及ぶ家族会議が開かれた。そして、その3日後に《優れた味覚生かしコーヒー豆焙煎 発達障害の15歳が開店》という新聞記事が世に出たのだった。〉

そのことが大きな変化をもたらした。テレビ取材も殺到し、小さな街は大渋滞を起こすようになってしまう。

しかしその半面、多くの方が彼のために、と続々と協力を申し出てくれた。輸入業者からは、珈琲豆の輸入時に使うコンテナを無償利用していいという申し出や、同業者からは高額な焙煎機を譲渡しますという申し出だ。

開人さんは言う。

「こうやってぼくらの手を離れてつながりを持っていってくれることが嬉しいのでありがたいですね」

戸惑いもありましたけど、夫婦のありかたもよくなったと思います。人間どうしても“私

はこう思ってるんだから、あなたもこう思ってよ”って他人に強制させたがる気持ちがあると思うんですよ。近しいととくに。

でもひーくんは2才の時から全然普通の子じゃなくて、私が産んだけど、私が今まで30年以上思っている固定観念が全く通用しない(笑い)。

家族って一緒に住んでいるけど、みんな単体だになっていうことがすごく勉強になったんです。だから、弟たち、みーちゃん(水葵くん)のことも、はーちゃん(葉月くん)のことも、子供と親という関係よりも、大人同士が話すように、来年何してるの、再来年どうしたいのっていつも具体的に話しています。

親ができることは全面的にする。しかし、家族だけではどうにもならない。だから他人の力を借りるとするのが夫婦の共通見解だ。

私たちの方が先に死ぬから、頼れる人には頼って行こうよっていう、ずうずうしい考えなんです(笑い)。

私たちもそういうふう生きて来たから。一生懸命やっていれば、必ず協力者が現れる。手助けしてくれる仲間ができるはずなんです。

すっごい人任せですけど(笑い)。でも社会って、何かできることを持ち寄って、できないことを埋め合って、それでシェアして生きていければいいと思うんです。

〈決して気負いはない。

「人に任せただけじゃどうなるかわからないって言うのがある。もし失敗したらまたやり直せばいいだけじゃないですか(笑い)」(開人さん)

響くんの珈琲は月替わりの1種類。ある月はガツンと濃厚で深みのある味。ある月は香り高くすっきりした味。いろいろな表情をみせる、響くんの珈琲。)

ひーくんにはできないことがいっぱいあります。日によって、環境によって、体調によってできない度合も変わります。でも、あらかじめ障がいのことをわかっているならば、問題なく暮らしていける。どういうふう考えてるの、見えてるのって、彼の世界を面白がれる社会になったらいいなって思うんです。 ※女性セブン2017年10月19日号

介護も医療も自宅で受ける 「看多機」都市部で注目 日本経済新聞 2017年10月5日

介護サービス拠点に看護師が常勤し、看護と介護のサービスを一元的に提供する「看護小規模多機能型居宅介護(看多機=カンタキ)」が注目を集めている。医療的なケアが必要になった要介護者が、施設に入らなくても介護サービスと医療処置を介護拠点や自宅でワンストップで受けられるのが特徴。都市部の高齢化が急速に進むなか、在宅生活を支えるサービスの現状を探った。

横須賀市に住む女性、Sさん(83)は9月から、介護大手セントケア・ホールディングの子会社、セントケア神奈川(横浜市)が運営する事業所で看多機のサービスを利用している。

呼吸器の持病があるSさんは7月末に肺炎で入院。退院後は要介護状態になり、常時酸素を吸入する生活を始めた。酸素を濃縮する装置を使うため、火を使った調理を避ける必要が出るなど、これまで通りの一人暮らしが難しくなった。

ケアマネジャーと相談し、医療処置が受けられる看多機の利用に踏み切った。現在は横須賀市の看多機の拠点に短期宿泊する形で、看護師が見守るなか酸素吸入を伴う生活を送っている。

「自宅で暮らし続けたいというのが母の強い要望」とSさんの長女(58)。今後は訪問看護などでサポートを受けて自宅で過ごす日を徐々に増やし、ゆくゆくは自宅中心の暮らしに戻ることを目指している。

看多機は2012年、介護保険の地域密着型サービスとして導入された。1つの事業者が、看護と介護の両方のサービスを泊まりや通い、訪問の3つの形で一元的に提供。要介護者の在宅生活や家族による介護を全面的に支える。

利用者は看護師や介護スタッフに自宅に来てもらうほか、拠点に通ったり、短期宿泊したりとニーズに応じたサービスを組み合わせることができる。主治医と連携し、24時間 365 日体制で看護師が緊急時に対応する。

どんな利用者が使っているのか。「退院後の在宅療養への移行支援が最も多い」とセントケア神奈川の看多機事業所の境美穂所長は話す。看護師が胃ろうによる栄養管理やストーマ（人工肛門）の管理、たんの吸引などをする。要介護者の通所時を活用し、看護師が自宅でのケア方法を家族に指導することもできる。

妄想や徘徊（はいかい）といった行動・心理症状（BPSD）が目立つ認知症患者のケアも、看多機が力を発揮する。看護師が症状を観察し、症状が落ち着くような適切なケアや対応を、主治医とともに進める。

末期がんの患者が、緩和ケア病棟や特別養護老人ホームなどが見付かるまでの間、看多機で痛みのケアなどを受けるケースもある。

利用料は介護保険の定額料金（要介護 3 の場合、約 2 万 5000 円）のほか、食費や宿泊費などが別途必要。泊まりが多いと月額料金は高くなる。

ハード面で新しい試みを取り入れた看多機も登場した。医療法人社団プラタナスが 5 月に開設した「ナースケア・リビング世田谷中町」（東京・世田谷）は、認知症ケアの研究で実績を持つ英スターリング大学による内装デザインを採用している。

一般的な白一色の浴室だと、利用者が床と壁、手すりなどの区別ができずに事故を招きやすいため、目立つ色の壁や手すりを設置。「白内障や、視野が狭くなった高齢者も多い。認識しやすいデザインが高齢者の安心や事故防止につながる」と片山智栄所長は語る。

医療費削減のため病院が入院日数を短縮するなか、自宅で療養する要介護者の医療ケアへのニーズは大きい。看多機は在宅に戻るまでの受け皿に加え、在宅が前提の介護療養生活を支える選択肢になっている。

介護制度に詳しい東京大学高齢社会総合研究機構の辻哲夫特任教授は「地価が高い大都市では、特別養護老人ホームなどの施設整備は難しい。有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に年金収入だけで入れる高齢者も限られる」と指摘、「在宅で医療的なケアを提供するサービスの充実は不可欠」と話す。

看多機はまた、医療ケアが必要で目を離しづらい要介護者を受け入れることで、介護する家族の休息を可能にする「レスパイトケア」も担う。在宅介護が広がるなか、看多機が支える対象は増えていきそうだ。

■事業所数は伸び悩み

看多機を提供する事業所の数は伸び悩んでいる。2017 年 4 月時点の事業所数は 350。06 年開始で、施設への通いと短期間の宿泊、訪問介護のサービスを 1 事業者が一元的に提供する「小規模多機能型居宅介護（小多機）」の事業所が全国に 5155 あるのに比べて低い水準だ。

看多機は当初「複合型サービス」として登場したが、医療と介護を組み合わせたサービスの特徴が利用者に伝わりづらかった。15 年に名称を変え、認知度アップを図っている。

事業参入の難しさも普及が進まない一因だ。小多機の事業者が看多機に参入する場合は看護師の確保が、訪問看護ステーションが参入する場合は土地・建物の確保が、それぞれハードルになっている。（相川浩之）

「死」を語るカフェ 京都・亀岡、寺院で開催

京都新聞 2017 年 10 月 9 日

京都府亀岡市の市民団体「京都・丹波／亀岡 市民まちづくり風の会」とくらしを見つめる会が死について語り合う「デスマス・カフェ」を同市本町の法華寺で 2 月に 1 度開いている。人生の終末期に備える「終活」ブームの中、死を考えることが生を見つめ直すことにもつながっている。

カフェは、事故で友人を失った経験がある市内の女性らが、死について思いを巡らせる

場として2014年ごろに始め、風の会が昨年引き継いだ。

「デスマス」は、死（デス）を大勢（マス）で考える意味の造語。同寺の杉若恵亮住職（57）も加わり、国ごとに異なる死生観や大切な人が亡くなったときに思ったことなどを話し合う。死をテーマにした映画も上映している。毎回幅広い世代の十数人が茶を飲みながら机を囲む。

デスマス・カフェで死について語り合う参加者たち
(亀岡市本町・法華寺)

このほど開かれたカフェでは、京都市内の介護施設に勤める女性看護師（44）を招き、医療現場から見た死について聞いた。延命治療の是非や、親をみとる家族の苦悩などに話が及び、参加者が体験談を語り合った。

初めて参加した辻豊さん（62）＝亀岡市篠町＝は「最期をどう迎えるかは、生きる上で考えなければいけないテーマ。いろいろな意見を聞いて参考になった」と話す。

杉若住職は「死は誰もがいずれ直面する事実。死をタブー視せず、皆で明るく考えることで余生が豊かになるはず」と語る。

次回は11月15日午後1～4時。「エンディングノート」を取り上げる。参加費500円。予約不要。問い合わせは風の会080（9164）7051。



【ネットの話題】中公新社が新刊「民進党蘇生計画」→直後に“解党”「一寸先は闇」嘆きに大反響 産経新聞 2017年10月10日



電子書籍「民進党蘇生計画」の表紙（中央公論新社）

第48回衆院選が10日、公示日を迎えたが（22日投票）、中央公論新社（東京都千代田区）がぼやいている。『2017年なんとも間が悪い出版大賞』があれば狙いたいレベルです。9月25日に刊行した電子書籍「民進党蘇生計画」（Kindle版・300円）のことだ。「蘇生」するはずだった民進党は、発売直後に事実上の解党が決定。月刊論壇誌「中央公論」編集部の公式ツイッターが「刊行したばかりなのに…。盛者必衰。因果応報。一寸先は闇」と嘆きのつぶやきを投稿したところ、3千以上のリツイート（10月6日現在）を集める大反響となったのだ。

緊急討論「なぜ私たちは支持を得られないのか？」

ツイッターでの反応は「爆笑必至でしょ」など面白いものが主だが、「逆に読んでみたい」「かえってなかなか読み

応えがあるかも」といった好意的な声も少なくない。

「民進党蘇生計画」は「中央公論」8月号（7月10日発売）の特集記事を抜き出して電子書籍化したもの。

中心となるのは、当時の同党の著名議員である次の4人による緊急討論。

- ・玄葉光一郎氏
- ・福山哲郎氏
- ・玉木雄一郎氏
- ・山尾志桜里氏



司会はジャーナリストの田原総一朗氏で、テーマは「なぜ私たちは支持を得られないのか？」。

民進党が弱い要因として北朝鮮の挑発▼高い株価▼政権のメディアコントローラーを挙げる玄葉氏の現状認識や、スキャンダルで離党を余儀なくされた山尾氏が「(皇位継承問題などに関し民進党は)『保守』たる役割を果たしたし、これからも果たしていく」などと述べる部分など、今振り返ると味わい深い記述が多い。

ちなみに玄葉氏は民進党の総合選挙対策本部長代行、希望の党の候補者調整を担当。今後、希望の党に合流する見通し。

参院議員の福山氏は、立憲民主党へ。玉木氏は希望の党公認で香川2区から出馬、山尾氏は無所属で愛知7区から出馬する。

ほか、野田佳彦元首相へのインタビューや、前原誠司氏の経済ブレーンとして知られる井手英策慶応大教授と小児科医の熊谷晋一郎東大准教授の対談が収録されている。

反響は民進党への怒りでは

同誌の斎藤孝光編集長は、もともとの企画時点での狙いについて「政権側で相次いだ“敵失”にも関わらず、政権不支持層の受け皿となりえない民進党って一体何だろう、ということ“蘇生計画”と銘打った」と明かす。

「別に狙ってこの時期に出したわけではなく、毎月ルーチン的にバックナンバーの記事を電子書籍化していたのが、たまたまこのタイミングになっただけ」と説明し、「ツイートした時点では、ただまいったなあ、というのが正直な気持ちで、これほど反響があるとは思わなかった」と驚く。

「でも、やはり、民進党があまりにも定見なく、あっけらかんと事実上の解党、合併へと進んでしまったことに怒りを感じていた人は多かったのではないかな。そういう人が同情してくれたのでは」

同書はアマゾンの全Kindle本のベストセラー順位で一時188位まで上昇したといい、硬派な論壇誌発の電子書籍としては異例の注目ぶりに編集長として手応えを感じているという。

政治家が何を言っていたか再確認を

斎藤編集長によると、総選挙公示後の10月12日頃を目途に、ここ半年ほどの同誌に掲載された、田原氏による政治家対談をまとめた電子書籍を刊行する予定だ。

斎藤編集長は「たとえば(立憲民主党代表に就任した)枝野幸男さん。すっかりリベラル派の親玉のようにまつり上げられているけど、5月号の討議を見ると意外に改憲に前向き。もともとガチガチの9条護憲論者というわけではなく、今の状況はそのあたりに誤解があるのでは」と指摘する。

「選挙の前に、政治家が過去に何を言っていたかを振り返っておくのは意味のあることだと思う」

さらに「左右双方がエキサイトして分断が進んでいる状況だが、今起きている事態についても構造として分析したり歴史の中に位置づけてみたりすると、相対化してとらえることができる」と話し、今後も論壇誌として国民が冷静に思考する材料を提供していきたい考えだ。(文化部 磨井慎吾)

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

